

心の灯だけは 消さないで



ばんどう ひろし
板東 浩氏

糖尿病専門医、ピアニスト、スピードスケーター、マスターズ陸上選手、著書として「肥満脱出大作戦」「Dr.板東の音楽療法シリーズ」など。印刷物は1200点以上。

このたび、私は世界最大のグラランドピアノを弾く機会を得た。奥行きが3m以上もあるF308。ピアノで重要なのは大きさではなく、タッチと音色だ。本ピアノは音が純粹で、演奏者の微妙な心の動きを变幻自在に表現できる。あたかも極彩色から墨絵まで彩りがある絵画のように。

ピアノの修業

内科医の筆者はときどきピアノに変身する。昨年、ピティナ(PITNA)と第1回ヨーロッパ国際ピアノコンクール(EIPIIC)に出場。両者で予選と本選を通過して全国決勝へ。運よくファイナリストとなった。

そもそも、ピアノの練習は英語やスポーツと同様に一朝一夕には上達せず、毎日少し

ずつ継続せねばならない。とても地道な修業と言えよう。

子供の頃とは異なり、仕事やマネジメントが優先となるため、練習時間の捻出が難しい。キーボードを持ち歩き、夜の12時を超えてから鍵盤に触ったりしたことも。

心の修行

実は指を動かす技術よりも、考える心が大切。運転しながらCDを聴き、医学書を読む間に楽譜をじっくり読みこんだ。行間を読むように音符の空間を推理し研究した。

すると、楽曲の分析でタッチが変化。低いベース、中央の伴奏、高い旋律について、3種の音色で表現できるようになりつつある。音楽の魅力をさらに味わっていきたい。

音楽で届ける幸せ

2つの決勝で上位には入らなかったが、結果は全く気にしない。それよりも、今回の経験で得た素晴らしい出会いが大きな収穫となった。

後者の決勝で触れた



Alec Weil氏、筆者
吉岡明代氏(指導者)



EIPIC 決勝大会(大学・一般B)での講評
Huberts Dreier氏、主宰者の杉谷昭子氏

F308はファチオリ製。イタリアのピアノニストFazioli氏自身が音色を探求し設立した比較的新しいピアノだ。シヨパンコンクールでも採用され世界で評価も高い。日本支社長は、PITNAで優勝歴もあるワイル氏。音楽で人々をハッピーにしたい気持ちは私と同じである。

EIPIICは杉谷昭子氏が主宰し、技術ではなく音楽性を重要視。講評では審査員が即興演奏するなど心が和む。このように音楽と幸せをお届けしていきたいと思う。